

## 2008年度オープンカレッジ秋学期開講科目ガイド

分野	科目名	コード	担当者	ガイド
工 学	機械材料学C	1	大西 直之	セラミックス、高分子(プラスチック)および複合材料という非金属材料の3つの大きな分類における構造材料としての性質や個々の具体的材料の種類について。
	半導体工学	2	後藤 英雄	家電製品、表示装置、計算機、制御装置、通信分野等で幅広く利用されている半導体素子の動作原理と特徴について理解する。
	通信方式	3	太田 健次	アナログ電子回路を基礎として、変調の必要性や復調の原理等について。
	建築と社会B	4	片岡 靖夫・ 稲川 直樹 他	社会・地域・歴史・資源と建築の関係について、オムニバス形式で5人の講師が順に担当する。
	基礎有機化学	5	田中 渥夫	メタンにはじまる数々の有機化合物の物質名および反応を体系的に把握し、脂肪族化合物の基礎的な反応について習得する。
	化学と環境	6	青島 淳	地球環境の構成や生態系の成り立ち、および様々な環境問題発生の原因について、また環境問題に対する政府・企業・個人の取り組みについて理解する。
	ネットワークシステム	7	常川 光一	通信ネットワークシステムの基礎技術からインターネットの構成までを学習する。
自然 科学	微分積分学	8	竹中 俊美	微分積分学を広く学び、実用上に必要な計算力を習得すると共に、さらに進んで解析学の諸分野を学び、基礎的な知識と力を養う。
	地球環境論	9	村岡 克紀	環境問題を宇宙、地球、生命の歴史の中でとらえ、人類文明とは何かを外側からグローバルに考える。
	物理学C(熱学)	10	宮島 佐介	物理学の根幹をなす一つの分野。熱力学と統計力学の基本的な考え方について。
経 営 学	経済学入門B	11	土屋大二郎	経済社会の諸問題を把握し、様々な事象を経済の側面から考えられる事为目标とする。
	国際会計論B	12	阿部 仁	会計国際化の歴史・最新の動向を理解し、日本の基準と国際基準の相違点及び会計基準のコンバージェンスについて。
	管理会計論B	13	竹森 一正	『管理会計論A』をさらに発展的に学んでいく。会計、環境、CSR、エネルギーのそれぞれとコストとの関連について。
	会計情報システム論B	14	竹森 一正	経営情報学の中でのコンピュータと会計学との融合を図り、管理会計の知識をエクセル上で応用して実現する。
	オペレーションズ・リサーチB	15	小和田 正	『オペレーションズ・リサーチA』と一体の趣旨(企業などにおける経営管理、運用上の問題に対し、数理的な方法で最適な解決を見出す)に基づくものであるが、この科目では「ゲーム理論」「在庫管理」をとりあげる。
	簿記原理	16	阿部 仁	『入門簿記』の後続科目。企業の財政状態(資産、負債)や経営成績など、財務諸表を理解できることを目標とする。
		17	仁川 栄寿	『入門簿記』で習得した知識を前提に簿記の基本的原理を取り上げる。企業の財務情報を収集・処理し、報告する方法について。
	マーケティング論A	18	鈴木 正慶	マーケティング戦略の基本的な知識・理論・実践を学び、企業を取り巻く環境変化へ対応する戦略的マーケティングの重要性を理解する。
	マーケティング論	19	小山 太郎	厳しい市場環境の中での企業の成長には、競合他社の動向および消費者の考えを把握する必要がある。そのためのマーケティングの考え方を教科書に沿って解説する。
組織行動論	20	寺澤 朝子	組織の中の人間像、組織をつくっていくプロセス、組織が存続する為に必要な資源の獲得をネットワークの観点から考える。また、生き残りのための組織変革の考え方を紹介する。	

分野	科目名	コード	担当者	ガイド
経営学	組織運営論	21	辻村 宏和	組織づくりにおいて、ハード面(組織設計論)以上にソフト面(組織過程論)のトラブルの怖さを現実に即して説明する。
	組織変革論	22	寺澤 朝子	『組織行動論』で学んだ知識をさらに広げ、企業の適切な事例を探し出し、その企業の属する産業の特徴をとらえ、企業の生き残り策を導き出すことを達成目標とする。
	情報基礎数学	23	西山 琢也	計算機科学の理解に必要な数学上の基礎知識、離散数学の基礎について。
	現代市民法	24	牧野 英克	主要な人生の節目や日常の市民生活に焦点をあてながら、関係する各種の法律(憲法・民法・会社法・刑法・訴訟法・行政法など)の基礎について。
	貿易論	25	山口 直樹	貿易取引の仕組みと貿易分析のための基礎理論を学習し、貿易と貿易環境をめぐる諸問題の考察から日本の貿易構造を明らかにする。
	原価管理論	26	竹森 一正	『原価計算論』の続き。単純総合原価計算の次の段階で行われる製品種類別の原価計算、及び標準原価計算によるコストダウンの手段について。
	株式会社会計論	27	仁川 栄寿	『入門簿記』『簿記原理』『上級簿記論』で習得した知識を前提として、株式会社の財務情報を収集・処理し、報告する方法について。
	管理工学概論	28	西山 琢也	経営・管理業務の全体を概観し、主要な工学的手法の概要について。
	微分積分学	29	西山 琢也	理論的な緻密性には深入りせず、学科内の授業に出てくる問題で、必要に応じて微分積分が実行できることを目標とする。
	流通論	30	山下 裕丈	流通の基本構造、及び流通・商業を取りまく現状とその課題について。
		31	三木 國愛	現代の「流通と商業」の現状と理論についての専門的理解を深める。
	人的資源戦略論	32	咸 惠善	春学期の『人的資源マネジメント』の授業内容を踏まえ、戦略的視点から、人的資源管理を考察する。
	日本経営史	33	小早川洋一	ビジネスの歴史を学びつつ、現代企業の経営管理のあり方を理解し、日本のビジネスの発展を、「経営戦略と組織」を含む諸側面において学習する。
	中小企業論	34	森岡 孝文	わが国の産業における中小企業の役割と現状に対する正しい事実認識を目標とし、今後の中小企業発展の可能性について考察する。
	金融論	35	土屋大二郎	貨幣とは何か、利率率とは何か、経済と金融の諸問題、金融政策等について日常生活とのかかわりの中で、解説する。
	財政学	36	石田 昌夫	政府行動の歳入の内訳は租税と公債であり、この両者の特徴と相異、経済の影響について。
	メディア表現論	37	浅野 泰朗	コンピュータシステムを使った経営管理に関する専門知識を理解できる技術を習得する。
	国際人的資源マネジメント	38	咸 惠善	文化と経営の関係、国際人材の育成とマネジメント、日本企業の異文化経営などを検討し、グローバル経営における人間のダイナミズムを把握する。
	広告論	39	三木 國愛	「広告とは何か」について、また広告活動の理論と実際への専門的知識、及び広告実務の基礎知識について。
	経営ケース分析	40	西田 豊昭	具体的なケースに従って経営学の基礎的な概念について。
	国際経済学	41	山口 直樹	国際貿易と国際金融の理論と現実を扱い、国際経済問題について。
	シミュレーション応用(要PC)	42	足達 義則	経営や経済の分野において、数学的知識を習得することで複雑な実社会をモデル化しながら簡潔に見る訓練をし、数学を有効な手段としていく。
	特別講義B	43	大島 俊一	21世紀の日本と世界の見方、及び世界と自分史との係わりを深める。6名の外部講師を招き、講義と質疑応答形式での講義形態。
		44	舩山 誠一	グローバル経済化、企業の多国籍化が進む中で、国際経営への基礎的理解を得る。

分野	科目名	コード	担当者	ガイド
国際関係学	アフリカを知る	45	青木 澄夫	日本とアフリカの関係・交流・協力の歴史をたどりながら、日本人のアフリカ観やアフリカ人の日本観を学習。テーマは「アフリカは遠いか？」。
	国際政治史	46	吉瀬 征輔	20世紀の国際政治史の概説。
	制度経済学	47	原田 太津男	「国際経済と企業」をテーマに現在話題となっている食料輸入、知的所有権、企業の国際展開などのトピックを中心に多国籍企業という制度を扱う。
	国際経済史	48	小島 亮	世界現代史、とりわけ戦後の展開を跡付け、そこを舞台に繰り広げられた経済史的事実を検討する。
	NGO/NPO論	49	野田 真里	「市民社会の台頭 - 21世紀社会の新しい担い手の課題と可能性を探る」をテーマに非政府組織(NGO)非営利組織(NPO)の理論と実践について検討し、「地球規模で考え、地域で行動する」地球市民としての能力を育成。
	地域開発論	50	野田 真里	「コミュニティ開発と貧困・格差の解消」をテーマに途上国、先進国を含めて、地球社会全体が直面する問題にどう取り組むかについて。
	平和と開発	51	羽後 静子	「持続可能な開発」をキーワードに、平和・人権・安全保障・ジェンダー・マイノリティの視点から、これまでの「開発」のありかたを再検討する。
	環境論	52	野崎 孝弘	環境政治学についての理解、および国際社会の現状を多面的に理解する事を目標に、受講生による発表と討論を主体とした学会形式で授業を行う。
	国際金融論	53	原田 太津男	グローバル経済を形作るおカネの大きな流れとそれをコントロールする仕組みを基礎から理解する。
	ジェンダーと開発	54	羽後 静子	「開発と女性」と「ジェンダーと開発」の二つの理論的・政策的違いを比較検討することを中心に見ていく。
ガバナンスと開発	55	羅 立新	従来ガバナンス議論を再検討し、開発協力・援助に当たって、政治・行政・財政・市場などの制度相互間関係と組織の役割について、複眼的視点から現状分析、実証分析を提示する。	

国際文化学	中東を知る	56	堀内 勝	宗教教義・儀礼、宗教文化について、「宗教としてのイスラム」及び「中東の歴史文化」を中心に授業を進める。
	北米を知るB	57	河内 信行	アメリカの社会と文化を第二次世界大戦の前と後に大きく二つに分け、その特徴を考察。第一次大戦を経て大国になったアメリカ、また大衆文化と大量消費のアメリカの矛盾について。
	ラテンアメリカを知る	58	杓谷 茂樹	ラテンアメリカ社会と歴史を地域別に、政治・経済・文化面にわたって概説し、その多様性を浮き彫りにする。
	英米言語研究	59	柳 朋宏	英語に関連する文化的・社会的・歴史的背景、及び身の回りに氾濫している「英語」が元々どのような言語であったのかについて。
	アジア言語研究	60	中野 麻里子	担当者変更により、シラバス準備中です。
	言語文化研究A	61	水野 豊	フランス語とフランス言語文化を取り上げ、多言語多文化問題、国家の言語政策、移民の言語使用状況など、多角的視野から言語文化を研究。
	イスラーム文化論	62	堀内 勝	イスラーム文明論の中で、芸術文化に視点を当て、宗教との関連を含めて、その意義を調べる。
	途上国文化論	63	長島 信弘	非西欧・非東アジア諸国に住む様々な民族の思考・行動・組織を映像記録を通して実感し、世界を見る目、人類の多様性認識を養う。
	留学生活論	64	財部 香枝	期間や目的等、多様な留学情報を自分で入手するリサーチ方法について。
	社会学	65	ウルリッヒ メーワルト	産業社会における社会成層の発達と、その研究・発展の具体的な例に基づいて、現代社会を理解するための社会学の基礎知識を深める。
近代東洋思想	66	小島 亮	江戸中期から戦後にいたる日本の思想を概観する。	

分野	科目名	コード	担当者	ガイド
国際文化学	観光人類学	67	杓谷 茂樹	観光を巡る様々な問題を通して、文化の変容・生成について考えてゆく。
	比較日本研究	68	ウルリッヒ メーワルト	主に日本とドイツを比較し、家族、または男女の役割に関する意識についての共通点と相違を、両社会の社会変動の枠組みで説明する。
	比較宗教学	69	中山 紀子	日本の宗教的状况を中心に、宗教と社会の関わりを理解する。
	人文地理学	70	澁谷 鎮明	地理学の、物事を2次元的な広がり(地域・空間・場所等)としてとらえる「ものの見方」とその方法について、具体的な事例を示しながら理解を深める。
	比較文化調査法	71	中山 紀子	文化人類学の基本的手法であるフィールドワークをその中心に踏まえ、地域研究の調査法を探る。
	世界史概論	72	河内 信行	ヨーロッパ近代・現代の国家形成の流れを追い、多くの国々の歴史に政治・経済・文化などが複雑に関連していること、その背後のどのようなモメントがはたらいっているのか、見る眼を養う。
	西洋思想史	73	小野木 芳伸	西洋思想の歴史を概観する。
	地誌B	74	澁谷 鎮明	講義では韓国での研究事例を中心に海外の資料の収集・分析の視点、フィールドワークを通じた実証研究の実例を紹介。発表では各自が国・地域を設定し、情報を収集して、問題点や研究テーマを報告することを目指す。
	音韻論	75	野田 恵剛	音韻論的な考えを学び、音素・音韻論的対立・相補分布・母音調和などの概念を理解することを目指す。
社会言語学	76	山田 伸明	多言語社会の問題点、社会階層、性差などによる言語の差異、裁判と言語、日本と米国の英語公用語化などを扱う。	

日本語日本文化学	日本語講義B	77	堀江 裕子	現代日本語の文法に焦点を当て、無意識に身につけていた日本語の文法の特徴、しくみについて理解を深める。
	近現代文学講読B	78	愛知 峰子	樋口一葉の文学を取り上げ、文体・文脈・テーマなどについて理解を深める。
	日本語教授法B	79	小森 早江子	日本語を母語としない人に「外国語として日本語を教える」とはどういうことを学び、日本語教授法の実践的な技能を修得する。
	有形文化論B	80	越川 次郎	民俗学における有形文化である民具について講義を行う。
	民間伝承論B	81	永田 典子	民俗学の方法に基づいて、民間伝承のもつ意味を分析的に考察し、日本人の基層文化について理解を深める。
	伝統芸能論	82	嘉原 優子	アジアに伝えられた伝統芸能に親しみ、それぞれの地域文化との関係、内包する諸要素の類似性や異質性、伝統的要素と現代の変容について理解を深める。
	古典文学講読B	83	本田 恵美	時代を超えて多くの人に親しまれている作品である『伊勢物語』から、古代人と現代人との思想の相違や共通点、表現の面白さについて。

分野	科目名	コード	担当者	ガイド
英語 英米文化学	異文化コミュニケーション論B	84	塩澤 正	異文化間コミュニケーションに関する「知識」を増やし、文化相対主義に基づく、非差別的な「態度」を身につけ、積極的に異文化を持つ人間と「行動」するための基礎能力を養成する。
	英語の歴史B	85	大門 正幸	言語としての英語の1500年に及ぶ歴史的発達・変化(音・強勢・語彙・語の構造・統語構造の変化等)と英語圏の政治的・社会的・文化的変化との密接な関係について理解する。
	日英比較言語論B	86	大門 正幸	日本語と英語の構造的な相違に焦点を当て、両言語の類似点・相違点について見ていく。
	英語の発音B	87	ヤーッコラ 伊勢井敏子	語彙レベルから、句・文レベルまでの発音現象を知り、日本語音を分析的に理解し、英語音との違いを認識する。
	英米文化入門B(イギリス文化)	88	本内 直樹	現代イギリス社会の様々な側面における「イギリス的」なるものを歴史的文脈から読み解いていくことでイギリス文化の深層に迫る。 (注：春学期の「英米文化入門A」と同じ内容です)
	スペシャルトピックスB	89	チャールズ サンディー	The purpose of this course is to read about, discuss, and do research into the various issues surrounding the history of language education in the 20th century.

コ ミ ユ ニ ケ ー シ ョ ン 学	音響表現 I	90	宇佐美 理	リアルタイム音響合成のためのプログラミング環境SuperColliderを使って、オブジェクト指向プログラミング言語の基本的な文法を習得しながら、音響合成の古典的な技法を学び、各自1つの作品を完成させる。
	現代文化史 B	91	井上 輝夫	近代以降の文化的問題群をとりあげ、現代という時代の基礎的な思潮を、コトバ・哲学・芸術をとおして知る。
	社会学 B	92	都築 耕生	戦後の混乱期から、経済高度成長を経て、石油危機、安定成長、バブルの崩壊を経て現代にいたるまでの日本社会の変化を中心に、現代社会の変貌と私たち自身の生活の関係について理解を深める。
	心理学 B	93	西野 泰代	心理学の基礎的な知識を自分の経験や日常生活に結びつけて理解する。また、社会的行動や心の病理の理解など、人間の心についての応用的な知識を習得する。
	言語コミュニケーション B	94	平本 毅	実際の会話データの分析から会話を成立させている種々の技法や手続きを明らかにする「会話分析」と呼ばれる研究手法の初歩を学ぶ。
	コミュニケーション論 B	95	松本 健太郎	春学期の『コミュニケーション論A』の内容を前提とし、現代人をとりまくコミュニケーション環境を総合的に考察する。
	メディアと歴史 B	96	和田 伸一郎	メディア環境の変貌を踏まえつつ、事件をどのように知り、どのように見て、どのように理解すればいいのかを学ぶ。また、メディアの歴史を辿ることを通してメディア学への導入をはかる。
	記号修辞論	97	伊東 豊	自分の考えを正確に、かつ説得的に発表する技術であるという修辞の本来の面に重点をおき、修辞学の歴史や具体的な技術について学ぶ。
	音響分析 A	98	葉口 英子	ブルース、ゴスペル、ジャズなどアメリカの黒人音楽に注目し、ポピュラー音楽の歴史とその様式を学び、音楽文化に対する基礎的な知識を得る。
	比較文化論 B	99	宮下 十有	「文化」とは、「文化の違い」とは何なのか、「文化が違う」とは何がどのように違うのか、等についてインタビュー調査などを交えながら考察する。
	メディア産業論 B	100	福田 功	企業としてのマス・メディアの現状と業務遂行・経営面で直面する課題を分析し、将来どう発展するかを考える。また、マス・メディアの取材、報道に対して一般市民としてどう対応すべきかを考える。
	表現と倫理 B	101	大橋 弘	表現行為の持つ多様な可能性と影響力を考え、人権観、プライバシー観、ワイセツ観の変遷を知る。また、デマと誤報の構造を分析・検討する。
	政治とコミュニケーション	102	栗木 千恵子	わが国の政治の仕組み・機能を理解し、現在の問題について自身の意見を持ち、それをどのように伝えればよいかを立案できる力をつける。

分野	科目名	コード	担当者	ガイド
コミュニケーション学	メディア・テクノロジー	103	和田 伸一郎	哲学者、精神分析家、文学者たちの考察を参考にしながら、テクノロジーによって人間身体、あるいは住む環境の何が変化したのかについて考える。
	ニュース記事・編集	104	福田 功	新聞のニュース取材と編集の方法を学ぶことで報道の意義を知り、ジャーナリズムの過去、現在、未来を考える。
	新聞研究 B	105	大橋 弘	インターネット・個別情報化の時代に新聞は生き残れるのか。市民・読者(受けて側)の変化に新聞はどのように対応していくか。具体的に問題点を検証しつつ新聞と受けて側の関係を検討する。
	テレビ放送研究 B	106	齋藤 宏保	「NHK特集」「NHKスペシャル」を中心に、報道番組はどう作られ、どんなメッセージが込められているのか。又取材・制作での問題点について検証する。
	社会の心理	107	山本 明	具体的な例を挙げ、社会心理学が扱う諸問題について解説する。またコミュニケーション行動に焦点を当て、背後にある社会心理的要因を探る。
	メディアとことば	108	柳谷 啓子	各種メディアとことばがどのように作用し合いながら、現代社会のコミュニケーションや私たちの現実認識(イメージ・固定観念・意識・世論・人間関係など)を作り上げているのか、またメディア環境の変化が及ぼす様々な影響や変化について見ていく。
	企業とコミュニケーション	109	大野 貴司	企業活動に重要な影響を及ぼすステークホルダー(顧客・株主・競合他社・異業種企業・マスメディア・政府・NPOなど)といかなる関係性を形成すべきか、ひいては社会で自社をどう位置づけていくかという課題をコミュニケーションという視点から論じる。
	医療・障害者とコミュニケーション	110	石井 賀洋子	自分自身の健康について考え、障害をもつとは、超高齢化社会を生きるとはどういうことか等について基本的な知識を学び、医療現場におけるコミュニケーションについて考える。
	映画史 B	111	小林 貞弘	世界映画史(戦後から1980年代まで)という枠組みを提示したうえで、日本映画を照射していく。映画とその歴史に関する基本的な知識を得る事を目的とする。
	映画研究 B	112	小川 順子	日米の恐怖映画のモチーフを分析し背景にある社会・文化の有様を考察する。映画を通して文化的事象を理解し様々な角度から読み解いていく。
音響分析 B	113	葉口 英子	メディア(映画・テレビ・アニメ・ゲーム等)における映像と音楽の相互作用に注目し、それぞれの音表現の特徴やメディアの特性に対する理解を深める。	

心理学	健康心理学A	114	小川 浩	喫煙、飲酒、睡眠といった生活行動習慣を取り上げて、その健康影響、心理的メカニズム、対処・対策、関連社会環境などを概説する。
	学校心理学A	115	西口 利文	学校心理学が扱うテーマについて包括的に概説し、児童・生徒の心理的、教育的支援に密接に関わる重要な概念や事項について習得する。
	心理学史	116	松井 孝雄	単に歴史的経緯をなぞるだけでなく、現代の心理学を総合的に捉えるための背景として心理学史を学ぶことを目的とする。
	臨床心理学B	117	願興寺 礼子	主な心理療法の学派を紹介し、それぞれの立場に共通する心理療法の基本ルールやプロセスについて解説する。心理療法について理解を深め、臨床心理学の真のおもしろさ、難しさ、奥深さを感じ取る。

分野	科目名	コード	担当者	ガイド
歴史・地理学	歴史学の方法B	118	丸谷 晃一 三浦 陽一 小林 博行	三人の教員が(五回ずつのオムニバス方式)それぞれの専門分野(候文で書かれた文献 小林・漢文系列の文献 丸谷・外交文書 三浦)の史料を取り上げ、その読解を行う。
	現代日本の地域性	119	中藤 康俊	北海道から九州まで各地域のトピックを取り上げて、わが国の地域的多様性について理解する。
	日本とアジアB	120	趙 寛子	アジアおよび世界史の現状に対する歴史的省察を具体化することで、現実を分析する方法を習得し、アジアの歴史に関する基礎知識と関心を深める。前半は一谷和郎先生、後半は趙寛子先生が担当する。
	日本の近世B	121	篠宮 雄二	日本の近世都市の諸問題の検討を通じて、日本近世社会についての理解を深めるとともに、現代の都市に近世の都市を対置させることで、現代都市が抱える諸問題を把握する。
	日本の近代B	122	森田 朋子	売春制度の歴史ではなく、日本の文化・歴史とからみあった問題意識をもつことを主眼とし、近代女性をめぐる諸問題を考える。
	日本の現代B	123	三浦 陽一	昭和史(特に十五年戦争)の経緯を、ビジュアルな教材を活用し概観する。春学期の『日本の現代A』の基礎的理解をうけて戦争の多面性を理解する。
	日本思想史B	124	丸谷 晃一	「近世(江戸時代)」の日本の思想史を取り上げ、江戸時代の対外認識を考える。また、幕末の攘夷論からナショナリズムの問題を考える。
	アメリカの歴史	125	柳沢 幾美	アメリカ合衆国の歴史を学び、世界に君臨しているアメリカ合衆国の姿を理解する。その際、少数民族集団、社会集団などの「マイノリティ」や女性も充分組み込んだ歴史解釈を学ぶ。
	地域と都市	126	林 上	資本主義経済の発展という時間の流れの中で都市がどのように生まれ、地域的に構造を生み出していったかについて講義する。
	経済地理学	127	中藤 康俊	今日の都市化に伴う住宅・交通・環境の問題、農山村の過疎化に伴う医療・福祉・教育・文化・農林業等の問題など、地域の経済的諸問題について明らかにし、国土政策を考える。
	日本地誌	128	北田 晃司	日本の様々な都市およびその背景にある文化、歴史、経済、風土などについて旅行者に近い視点から具体的に検討する。
科学技術の歴史	129	小林 博行	近代日本の産業技術史について概説しながら、1)明確な観点から資料を読むこと、2)その観点からみえる見取り図を描くことを目指す。	
世界地誌	130	末田 智樹	日本の諸地域と世界の諸地域について地誌学を通して考え、比較検討する。	

芸術学	音楽の表現と歴史	131	鶴田 正道	「モーツァルトの生涯と謎のオペラ」をテーマに映画 アマデウス や歌劇 フィガロの結婚 を鑑賞しながら、モーツァルトの 歌劇の謎・面白さの秘密に迫る。
	美術の思想と表現	132	千葉 成夫	日本の美術を中心に、代表的美術作品のスライド等からイメージを記憶し、それがどのような歴史のなかに位置しているのか、また「美術作品」の本質とは何か、人間すべての精神活動でどのような意味を持つかについて考える。

分野	科目名	コード	担当者	ガイド	
応用生物化学・環境生物科学・食品栄養科学	環境動物学	133	須藤 千春	人間の生活に深く関係し農業や衛生・医療に多くの益と害をもたらす、昆虫・クモ・ダニなどの節足動物の生命活動の論理を学ぶ。また、それらと環境との関係、人類の健康との関連を探る。	
	機器分析化学	134	山本 敦	エレクトロニクスの技術の発展で進歩が著しい分析機器の基本原則を理解し、正しい操作法の習得と正確なデータ解析について。	
	食品科学概論	135	和田 俊夫	食品の主な構成成分、おいしさに関わる要素、加工における成分変化、食事と健康の関わり、安全性の確保、関連法規や表示制度などについて幅広く概観する。	
	生物環境調節学	136	寺井 久慈	自然環境に対する生物の基本的な応答について解説し、次いで生物生産のため及び生産物の貯蔵・鮮度保持のための環境調節について具体的な実験データを紹介し問題点や今後の課題について解説する。	
	微生物学		137	永井 和夫	微小生物の存在が明らかになって以来、どのように研究され、人類とのかかわりでどのように理解されてきたかを学び、さらには未知なる可能性について考える。
			138	荒井 基夫	微小生物の存在が明らかになって以来、どのように研究され、人類とのかかわりでどのように理解されてきたかを学び、さらには未知なる可能性について考える。
		139	倉根 隆一郎	微生物の種類、代謝の基礎的なところから産業応用としてのアミノ酸発酵、抗生物質など、さらに環境浄化について。	
理論生物学	140	関村 利朗	生物現象を数理的手法によって理解する理論生物学の考え方・解析方法を色々な例を挙げて概説する。		

生命健康科学	生と死の文化人類学	141	小林 邦彦 石井 賀洋子	医療施設でのフィールドワーク(死体解剖を含む)で得られた現代医療における生と死に関するさまざまな現象をDVD・スライド等を活用し、文化人類学的視点から紹介する。また、生と死について向き合い、健康の意味について考える。
	公衆衛生学	142	城 憲秀	1)健康事象の因果関係や疫学・統計手法などの基本的な事項、2)法令や組織などの社会的な健康増進サポートシステム、3)公衆衛生的観点に基づく社会的な健康問題へのアプローチ手法について学習する。
	微生物学	143	伊藤 康彦 伊藤 守弘	抗生物質等の作用機構や耐性獲得機構の学習を通して人類と微生物との戦いと共存の歴史について、及び消毒法や滅菌法の原理と実際について学ぶ。また、院内感染、新興感染症や再興感染症の実態を講義する。
	生命倫理学	144	佐藤 芳	医療の高度化に伴い再考や変更を迫られてる生命に関する価値観について、生命を倫理的に扱うという基本的な態度から学習、習得する。
	学校保健学	145	小林 きよ子	生涯にわたって健康で質の高い生活を営むために、学校の果たす役割を理解し、教育目標の理念を踏まえた学校保健の課題と可能性を探り、実際に展開できる能力を養う。

現代教育学	教育方法学	146	豊田 ひさき	学校や教育施設で、教師と子どもとの間の「教える 学ぶ」の関係を教育現場の実践をあげながら歴史的に概観する。また、この基礎知識を土台にして小学校の学習指導要領を子どもに定着させると同時に、一人ひとりの個性を伸ばすことを目指した教育方法の基礎的知識とノウハウを習得する。
-------	-------	-----	--------	---